

# ARDFって何？

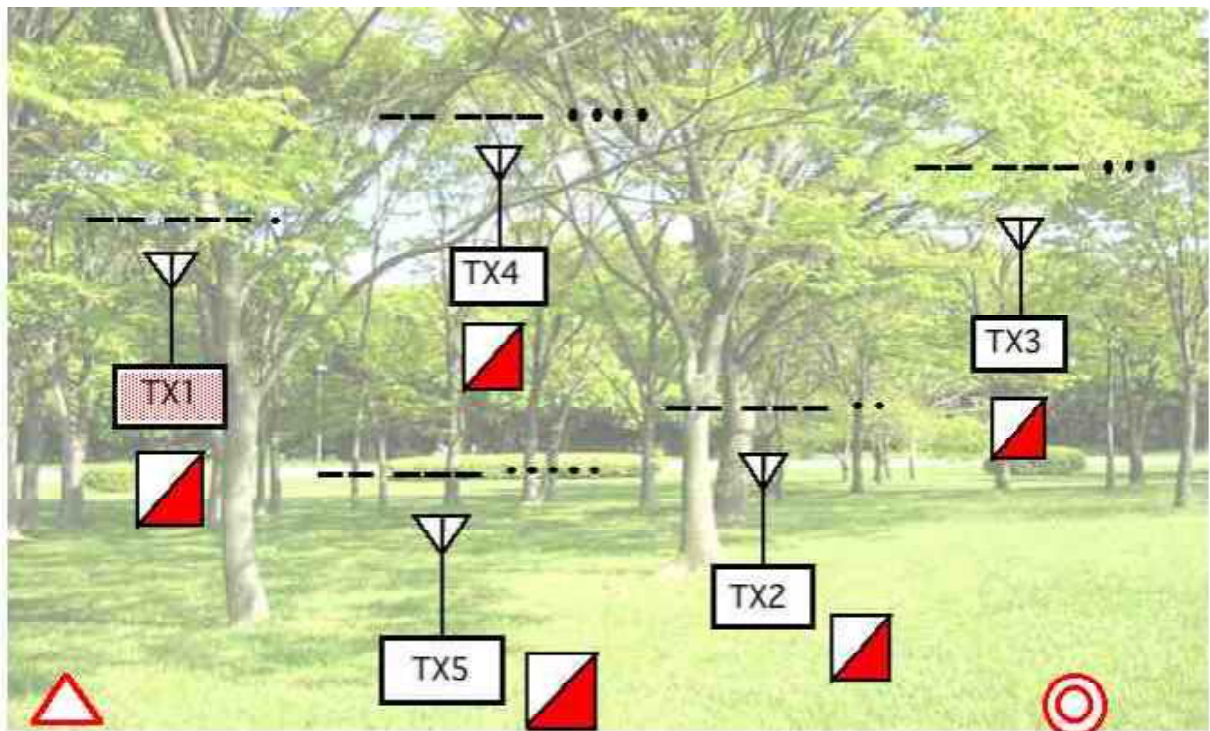
JA1ANF 小森田 克比呂

「ARDF」とはAmateur Radio Direction Finding の各頭文字から取られた万国共通の名称です。万国というのは、IARU(国際アマチュア無線連合)で競技規則が定められていて、隔年毎に、世界大会や Region 大会も行われているからです。

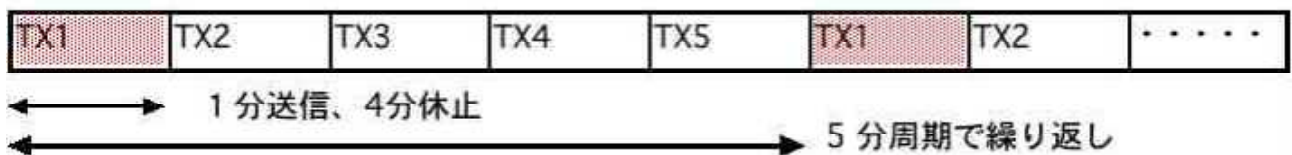
D, F は、方向探索競技などと訳され、アマチュア無線の電波を利用した、オリエンテーリング(OL)に似たスポーツです。そのため、Radio Orienteering とか、TX Hunting 等とも言われます。昔は探索対象を狐に見立てて Fox Hunting 等と言っていました。

## ARDFの仕掛けがすばらしい

探索対象の電波源は、アンテナと送信機ですが、代表してTXと呼んでいます。実際には下図のような色分けの標識と、通過証明用のパンチ台またはICチップのチェッカーが置かれています。素晴らしさの第1は電波の出し方です。TXは5個設置するのが基本ですが、各TXは1分発信、4分休止で順次識別符号を送信します。このように、電波の休止時間があることから、その間は止まるか進むか戦略が必要で、走力万能とはならないのです。



各TXの送信プログラム



クラシック競技の例

電波の識別にはモールス符号が使われますが、MO(--- ---)に続くドットの数TXの番号に対応するので、誰にでも判り易いです。

# ARDFのお勧めポイント

## 1. 健康造り

大会のトレイン(競技エリア)は、高低差が大きい里山などに設定されますので、森林浴と自然探索を楽しめます。足を鍛えることは健康造りの基本ですし、アマチュア無線のイメージ向上にも役立ちます。

## 2. 脚力万能ではない

前記送信プログラムのように、各TXの電波は5分の内4分は止まります。タイミングに応じた行動が必要です。競技参加にハムの資格は不要ですが、無線技術とOLを結合した様な競技があるとは何と嬉しい事でしょうか。電波は2m種目でA2A、80m種目ではA1Aと、初歩的なモードが使用されるので、機材を工夫する楽しみもあります。

## 3. 知力を活かせる

前項の4分の使い方は知力を使う場面の一つですが、探索の基本である、電波の強さや方向は、地形や周囲状況に影響されるため判定が難しく、経験も必要になります。

OLでは、探索対象の位置と、巡回順序が地図に記入されているのに対し、ARDFではスタート(△)とゴールビーコン(◎)の位置などが示されているだけです。地図上で現在地を確認することは各競技の基本技術ですが、それ自体易しいことではありません。ARDFでは電波に引きずられて地図から眼が離れがちなので、更に難しいと言えます。

TXの探索順序は、競技の基本戦略になりますが、地図の配布後10分間での読取と、スタート後初期の収集データにより自力でプランする必要があります。

## 4. 宝探しの楽しさ

未知のトレインでTXを発見できた時の嬉しさは、自分の探索技術の証明でもあり、隠されたものを発見すること自体楽しいものです。しかし、取りこぼしは悔しい。次はうまくやりたい。ゴール後、先輩や仲間達との自然発生的な反省会も楽しく、勉強にもなります。最近では、GPSロガーを携行した選手のデータを元に、実際の走行軌跡を見ながらの反省会が行われる場合もあります。

## 5. 自主性や胆力が養われる

未知の山中でも進路の選択は自己責任。ほかの競技者と相談することは許されません。目の前に迫った分かれ道、右へ進むも左へ進むも、全て自分の勘と経験、判断力が試されます。

## 6. ハムへの入口として

技術の進歩した現代では、若者達の技術的関心の対象が多岐に渡り、アマチュア無線への関心は相対的に低下傾向です。アマチュア無線の発展のためには新しいハムの参入が必要です。ARDFは、青少年への教育効果も高く、学校クラブ活動の目標としても適することが認識されて、活動が活発化していることは、喜ばしいことです。

## 7. 生涯スポーツの一つとして

2010年クロアチアでの世界大会から、M70クラス、W60クラスが設定され、国内ルールでも平成26年(2014年)から採用しました。同類の競技であるOLと比較して、ARDFではゴール入口から常時ビーコンが発信されているので、例えば疲労で気力が弱っても、常にゴール方向を探知して帰還できる点で、安心感があります。OLでは、探索点を一つでも逃すと失格の扱いですが、ARDFはその点寛容なのも嬉しいところです。

※JA1ANF小森田OMは平成28年暮れ、81歳の生涯を全うされました。78歳まで競技に参加されていたOMに敬意を表し、哀悼を捧げます。

# 半世紀ぶりのARDF

フォックスハンティングで優勝した思い出を胸にARDFに参戦しましたが、半世紀のブランクは大きかった・・・

JA0BET 齋藤 俊治

## ○優勝の思い出

古い話で恐縮ですが、今から53年前、昭和39年(1964年)の春、所属していたクラブのフォックスハンティング大会で優勝したことがあります。

その後、CM現役引退⇒カムバックHAM⇒「昔のフォックスハンティング優勝を思い出し、何時かはARDF参戦を」と思っていた2年前の支部大会前夜祭で、お酌に来てくれたJA0HWC丸山正さんに、お酒の勢いも手伝って「昔、フォックスハンティングで優勝したこともあるので簡単だと思うけど!!俺もARDFやってみたい!!」と・・・すると丸山さん「じゃあやってみなさい!!」その場でJF0FDT佐藤久さんにメールをしてくれました。これが現在のARDFとの出会いです。

## ○復帰初戦

高校生大会当日、借り物のレシーバーながら嬉々としてスタートしましたが、結果は「ノーTX」恥ずかしく悲しかった。集合場所へ戻るバスの中で同乗の高校生達は、不機嫌そうな私に気を遣って席を空けて座り、小声で「TX〇番は・・・だったよね」などと話し合っていました。未だ見たこともないTXの話に入っていけるわけがありません。自分の力の無さとノーTXの悔しさが顔に出る弱さを悲しく思いました。

## ○悔しさを胸に練習

数日後、筋肉痛の解消とともに「練習以外にない!!」と思えるようになりました。

数ヶ月かけて受信機を入手。練習用TXはFT-817です。

週に数回、朝晩の散歩時に30分程度の発信源の探索を行いました。TX位置(自宅)が分かっているので、有効な練習になったかは疑問ですが、単純な練習でも回を重ねる毎に「ノーTXの恐怖心」は無くなっていったように思います。

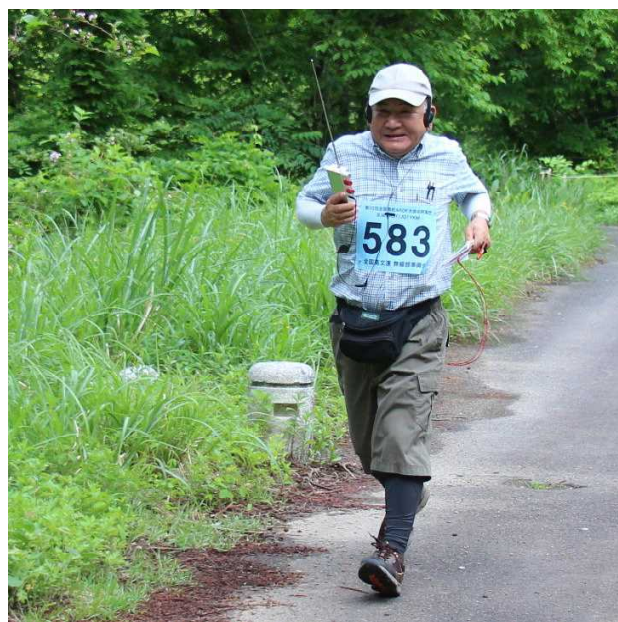
## ○忘れられないフラッグ

昨年4月の下野の国ARDF競技大会では、初めてTXをゲットし、嬉しさのあまりそのままゴール!タイムはわずか38分でしたが、あのときのオレンジのフラッグが忘れられません。

また昨年7月の高校生大会では全TXをゲットできました。バスの中で隣に座った男子中学生が「僕、〇〇学園の□□です。今日は良かったでしょう?何個ですか?」私「5...5個全部」男子「凄いじゃないですか!!僕、今年1個ですよ」屈託のない笑顔の若者に比べ、1年前の自分が情けなく思えてきました。それでも私は満面の笑みだったようです。

最近では、国土地理院の地形図等で予習をする余裕も出てきました。地形を想像したり、Googleの航空写真やストリートビューで「仮想探査」も楽しんでいきます。

今の力では好成绩は望めませんが「元気でM70クラス入り」を目標に、これからも練習を続けていきます。



# 練習会として大会を復活

JJ4KME 古城 朋和

## ○好フィールドで続いてきた大会

広島県呉市にそびえる野呂山(標高839m)は、瀬戸内海国立公園にも指定され、風光明媚な東西二つの山(膳棚山・弘法寺山)からなる高原地帯です。

この野呂山では、平成元年頃から地元クラブを中心に県内のARDF有志が集い、本格的なARDF競技大会が開催されてきました。例年、3月下旬に開催され、西日本エリアの皆さんには「シーズンインの走り初め」として好評を頂いてきましたが、スタッフ不足等の事情もあり、平成27年(2015年)を最後に開催が途絶えてしまいました。

## ○やっぱり野呂山を走りたい

そんな中、熱心なARDF愛好者の皆さんから「野呂山の大会を復活して欲しい」という声が聞こえるようになり、自分としても西日本エリアでの3.5MHz競技の機会を増やしたいという思いから、気軽な「練習会」という形で開催することにしました。

ARDF愛好者のMLに投稿したところ、翌朝すぐに「参加します」と電話が掛かってきたのには驚きました。

## ○一人で準備

「皆さんの声に押されて」ではありますが、準備はほぼ私一人です。これまでは年

に一度しか行くことのなかった野呂山ですが、準備のために2・3回通いました。

省力化のため事前申込は必須とせず、参加費も地図と消耗品代程度で500円とし、未成年者は無料にしました。参加される方には名前と緊急時の連絡先を書いてもらい、帰還チェックだけは行います。

当日の受付も、私が参加カードと集金箱を持って歩くだけです。

## ○野呂山を走れて満足

午前の練習はクラシックです。現地にシヤックを持っている友人に頼んで、敷地の隅をスタートに使わせてもらいました。TX間の距離も本物の大会より短くしましたが、微弱TX故の難しさがあったようです。

午後の練習はFOX-Oです。野呂山の地形は、東西の山の間が100m近くも凹んでおり、地図読みを鍛えてもらうべく、またFOX-Oは練習の機会が少ないことから取り入れることにしました。香川県から来られたお兄さんが「思い通りのルートでショートカットできた」と、大喜びして帰られました(^\_^)

ほとんどの皆さんが「やっぱり野呂山は楽しい」と満足して帰られたようです。

これからも、気軽な練習の機会として、開催を続けていきたいと思えます。

